

## (1) 適正配置について

### 【検討委員会での主な意見】

#### ① 望ましい通学距離及び通学時間について

- ・現状では、国の基準により運用されていることから、通学距離及び通学時間の目安は、国の基準を参考にしてはどうか。
- ・統合となる場合は、遠距離で通学することが想定されることから、スクールバスの運行や公共交通の整備など通学手段の確保が必要である。
- ・現在の通学区域で、隣接の通学区域の学校が近い場合もあり、通学区域の弾力化を考えてみてはどうか。
- ・特認校制度というような、どの地区からでも通えるといったシステムを入れることも可能ではないか。
- ・どの学校でもオールフリーで選べるとなると、地域の運営が難しくなる場合や偏りも生じる恐れがあり、ある程度の調整が必要ではないか。

#### 望ましい通学距離

小学校:原則4 km以内

中学校:原則6 km以内

#### 望ましい通学時間

適切な通学手段を確保することで、おおむね1時間以内

#### 特に考慮すべきこと

##### ① 通学手段の確保及び通学路の安全について

学校が再編される場合、通学区域が広がることが想定されることから、通学路の安全確保に十分配慮し、遠距離となる場合には、スクールバスの運行や公共交通の利用等の適切な通学手段を検討すること。

##### ② 通学区域制度の弾力的運用について

地域によっては、通学区域の学校より隣接区域の学校の方が近くなることも想定されることから、実情に応じて、通学区域制度の弾力的運用についても選択肢として検討すること。